山満多山　中

酒蔵人

玉川の
水のみたれや
大木戸で
多くのめする
夕立の雨

狂頭好見

大木戸よ
玉川に
御ふね
あめ出ての

月代都まされ
夕まくの
雨

回子彦丸

大木戸よ
ほうらし
馬の
尾張
見けく
背まく
濡らく
ゆふ立の
雨

孝志亭物成

此夏の
昼もたえずも
夜すゞし
夕一日より
風の涼しさ

佐吾琳
集丸

更君山
茶屋の火入へ
こゝろにも
おとに吹く
夕日のすゞしさ

梅之坊
花色

まつかぜく
あつさの山の
ぬこさる

さゝら川也
ちりも
まじしき

深紫樹
勇成

夕月は更君の
山のうへより
こぼれけり
風の涼しさ

玉光舎
占正

かりもにこえて
更君の
山風も
あつさの昼か
まつりける

奈風袁放

月白し同し
旅おもほつゝも
月ハ大小不動明王

福寿家梅人

めくる山むかえる
月ハ水車
思ひおしき
秋の中え

花永女

馬白山に
しらしくと
月のうけ

さし出て
月のよくうけ

千代尚信

鳥の名の月白しと
きこゆ秋の夜す
よくもさし
たる
きらら月のうけ

東森氏

青まい調の
こゝ手やさ
けしくいへい
川しも月白き
月の
かけころ

東光庵
声渡

光秀のあとし所よ
ことふりて ゆきちの
月も出沢の洞

墨圓台

行きはるらく
つきとしくあき一ね
千とせふりし音
秋の中光

甲斐白松

さやかなるこよひの
月よなかそ
らし

あまへ八幡の
光とらさし
まく

鴨羽※

ほのうし光八まんの
めしる御い
弓してめ人は
いまきよし より

破風家甲

かけ歩む
てらひて月の
むら松
祇川まだ
まだ
らひる

勢ホ世二番役

田の面ハ髪結て
ここらく関口よ
かくれあるゝも
うけくさらん

得意教麿

かりいれし後の
あくるく関口
行くこゝろえ
稲も
いま南し

枝陰法師

おくてうつ時ハ
こくう風早口よ

くはくおろそかに
うけし

千稲

大山ま
篤吉

秋の穂稲よ
田うちよし
御ゆくく
本のさすまゝも
二すらし関口

三組下吉

関口の行居
よくくも
さくえんよ
とりくて
うけうか
鶴千稲

石美吉志

星の名の十二社より
十二相初色の
まつき神に
向ふん

若麦好也

十二社こゝは熊野の
かけしるし
こゝまてをけし
さかやの花

秋田舎 芥穂

十二社こゝは
熊野の
烏瓦
松と松との
枝よ
やまから

黄瓶布労女

ゆきもとの
こゝ十二社の
宮より
月は首ふり
気の毒の
な

秋衣き

ちくさの
文もんまでや
まきのふ
此頃堂の
むらあけの
しつ

常盤星槃

ときし行き
おりく文や
さらへん
雪に
ほしきも
いつめ
ならに